

夏秋ギクタイプスプレーギクの適応品種選定

1. 試験のねらい

夏秋ギクタイプスプレーギクは、日長に対する反応が品種によって異なり、計画的な生産が困難な面がある。そこで、自然日長処理の開始時期を10日間隔で移行させた場合の開花までの日数およびスプレーフォーメーション等を調査して、品種別の日長に対する特性を把握し8～10月出しで適応可能な品種を選定した。

2. 試験方法

試験は平成9～10年に農業試験場本場内露地圃場で実施した。供試材料は夏秋ギクタイプスプレーギク25品種を用いた。深夜5時間電照による栄養生長期間を育苗箱直挿し処理時から14日程度処理して試験サンプルを養成した後、露地圃場に置いて自然日長条件下で開花させ、開花に要する日数および開花時のスプレーフォーメーションを調査した。

3. 試験結果および考察

(1) 6月1日～7月1日の期間における消灯では、10日間隔で消灯日を移行しても開花がほぼ同じ時期になり、開花に要する日数がほぼ10日間程度で徐々に短く推移する品種群と、消灯日から75～85日程度のほぼ同じ日数で開花する品種群が存在する。しかし、7月11日以降の消灯では、ほとんどの品種の開花に要する日数が短く推移する(図-1)。

(2) スプレーフォーメーションと開花に要する日数の関係については、6月1日消灯の場合、開花に要する日数が85日以上品種はスプレーフォーメーションDおよびEタイプの比率(出荷不可能な花房を持つ切り花の割合)が高まる。85日より短い品種においては、DおよびEタイプの比率は0%であり、その差は明確である(図-2)。

(3) 各品種別に適する作型は以下のとおりである。

「スイートスマイル」は、7月11日以降の消灯ではDおよびEタイプの比率が高くなるため8～9月出しに適応する。

「セイモナコ」、「コイアローム」および「95-3108」は、7月以降の消灯ではDおよびEタイプの比率がやや高くなるため、8～9月出しに適応する。10月出しは要検討。

「パラダイス」、「95-3173」、「95-3125」、「グロリア」および「エミリア」は、6月1日～7月1日までの消灯日から75～85日程度で開花する品種であり、どの時期でも切り花のスプレーフォーメーションはA～Cタイプの比率が高く8～10月出しに適応する。

「アンコール」、「モニカ」および「ルカ」は、7月1日以降の消灯でスプレーフォーメーションの乱れが少なく9～10月出しに適応する。但し、モニカの10月出しはスプレーフォーメーションの乱れが顕著であり検討を要する。

以上、表-1に示した12品種が目標とする8～10月出しの一部の期間または全期間において適応する。

4. 成果の要約

夏秋ギクタイプスプレーギク8～10月出し電照抑制栽培における適応品種の選定を行い、特に適応する期間が長い品種として「パラダイス」、「グロリア」および「エミリア」を含む5品種を選定した。

(担当者 花き部 鈴木智久)

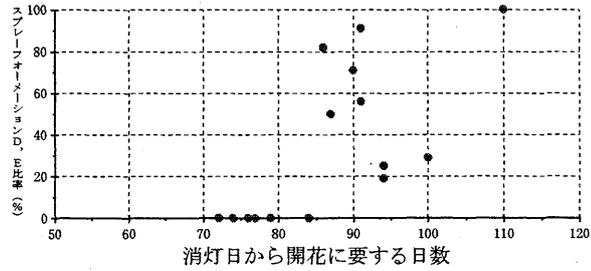
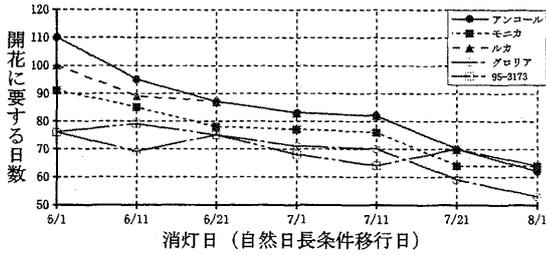


図-1 処理区別の品種別開花に要する日数
(代表5品種)

図-2 開花までの日数とスプレーフォーメーションD,E比率の関係
(6月1日処理)

表-1 処理開始日別のスプレーフォーメーション比率と適作型の判定

品種名	6/1処理					7/1処理					8/1処理					適作型		
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	8月	9月	10月
スイートスマイル	11	22	67	0	0	0	80	20	0	0	0	16	50	34	0	○	○	×
セイヤコ	88	13	0	0	0	75	6	19	0	0	13	29	29	29	0	○	○	△
コイアローム	0	0	100	0	0	22	44	23	11	0	20	40	20	0	20	○	○	△
95-3108	67	0	33	0	0	67	27	6	0	0	0	29	42	29	0	○	○	△
パラダイス	17	75	8	0	0	0	29	71	0	0	0	14	86	0	0	○	○	○
95-3173	0	25	75	0	0	82	0	18	0	0	0	57	29	14	0	○	○	○
95-3125	33	67	0	0	0	29	59	12	0	0	0	43	57	0	0	○	○	○
グロリア	57	43	0	0	0	44	56	0	0	0	0	33	67	0	0	○	○	○
エシリア	80	20	0	0	0	12	41	29	18	0	0	10	90	0	0	○	○	○
アンコール	0	0	0	71	29	11	89	0	0	0	21	58	21	0	0	×	○	○
モニカ	8	0	0	84	8	25	42	8	25	0	20	20	40	20	0	×	○	△
ルカ	0	43	28	29	0	33	33	17	0	17	78	22	0	0	0	×	○	○

注) スプレーフォーメーションA~Eの条件内容は次のとおり。なお、正常開花は1本の側枝に1輪の花が付くことを指す。

- A: 正常開花5輪以上で、頂花と同じ高さの側花が3輪以内、
- B: " 頂花と同じ高さの側花が5輪以内、
- C: " 頂花は他の側花より低い位置にある、
- D: 正常開花した花が5輪以下、E: ヤナギ芽の発生がある。

表中の数値は各タイプの切り花が収穫した切り花に占める割合(%)を示している。

適作型の記号は、○: 適合する、△: 可能だが検討を要する、×: 不可を示す。

系統番号で記載されている品種は、JA全農営農・技術センター育成品種である。